

# 太平洋戦争下の少年雑誌

—月刊『海軍』細目—

神谷 忠 孝

ままとした。

## 第一巻第一号 昭和十九年五月一日

### はじめに

日本の戦時中に出版された少年向けの陸・海軍関係雑誌として、『海洋少年』（海と空社、昭和十四年七月創刊、昭和十九年一月号まで確認）、『飛行少年』（大日本飛行協会発行、昭和十七年八月創刊、昭和十九年九月号まで確認。創刊号の表紙に「第五卷第八号」とあるので実際の創刊は昭和十二年と推定されるが未確認）がある。

ここで扱う『海軍』は、起用されている画家、作家、詩人などが有名人であること、大手出版社からの発行で流通が行き渡り、影響力が強かった点が『海洋少年』『飛行少年』と異なる。青少年を戦争に参加させるための方法を考察する上で貴重な資料である。

凡例を以下に記す。各号につき、号数・発行年月日に続き、執筆者（文学者以外は肩書）・「題目」・頁数を本文の内容に従って順に記し一字分けて区切った。また〈発行〉〈表紙絵〉〈募集〉〈広告〉についても付記した。頁数の下の（ ）内にはジャンルの別を注記した。創刊の言葉は注にまわした。旧漢字は新漢字に直し、旧仮名遣いはその

栗原悦蔵（大本営海軍報道部長・海軍大佐）「創刊を祝ふ」1頁  
来れつづけ青少年（口絵写真五葉）5～8頁 尾崎喜八「我等の海軍」6～7頁（詩）大木雄二「あつぱれ日本魂・柴崎中将」（絵物語）・梁川剛一画9～12頁 小川哲男「火の玉カンチャン」（漫画）  
13～16頁 栗原悦蔵「決戦下の海軍記念日をむかへて青年諸君へ」18～21頁 大林清「ワシントン大爆撃」・高井貞二画（小説）  
22～30頁 国民学校初等科五年生二名「安保海軍大将に日本海海戦のお話を聞く」31～35頁 土屋賢一（海軍省嘱託）「仰げ山本元帥」・伊藤幾久造画36～37頁 山崎淳一（海軍主計大尉）「南太平洋血戦手記・血染めの軍艦旗」・村上松次郎画（手記）38～47頁 吉川英治「海戦山軍」・玉村吉典画（随筆）50～57頁 海軍省人事局「甲種予科練志望者のために」「海軍兵志願者に答へる」60～62頁 清閑寺健（「海軍」特派員）「日本一の軍国熱にもえる山の海軍村をたづねて」（訪問記）63～67頁 清水洋（海軍航空本部海軍中佐）「ロケット爆弾とはどんなものか」（新兵器の話）68～69頁 海野十三「宇宙戦争」・飯塚鈴児画（小説）70～77頁 西條八十「君も僕も空も決戦場へ」78頁（詩）岩田豊男「九号水雷艇」・松野一夫画（小説）80～84頁 角田喜久雄「南海の美

少年」・山口将吉郎画(小説) 86〜94頁

〈頁数重複〉「海軍兵学校の『五省』」21頁 「山本元帥のうた」37頁

「軍艦にまつわる神社」40頁 「軍艦旗の掲揚」47頁 「漫画船団」

61頁 「笑話二つ」69頁 「ここに艦隊」79頁 「創刊のことは」

84頁(注1)

〈発行〉発行人 高木義賢 編輯兼印刷人 竹中保一 発行所(東京都

小石川区音羽町三丁目十九番地) 大日本雄弁会講談社 印刷所(東京都

下谷区二長町一番地) 凸版印刷株式会社 配給元(東京都神田区淡路町

一丁目九番地) 日本出版配給株式会社 定価五十銭

〈表紙絵〉寺内萬治郎「あこがれの予科練」(表紙に「創刊号・海軍記

念日特輯」「戦場は君たちを待つ」の文字)

〈図版〉「想像絵ワシントン大爆撃」高井貞二画 3頁 編集部「誰にで

てもおもしろく覚えられる海軍の手先信号」48〜49頁

〈体裁〉雑誌の大きさは、縦二十一センチ、横十五センチ

〈募集〉「僕の考へた『新戦術』―敵艦轟沈」僕らの大気焰ページ」学

校だより」「笑話」85頁

〈広告〉ここを母艦に(西宮航空園) 映画「轟沈」(日本映画社)「怒り

の海」(東宝映画)「戦争の為の鉛筆」(三菱鉛筆)「みたみわれ大君に

すべてを捧げまつらん」(三和銀行)「小国民は科学兵器を作れ模型設計

図で」(富士写真工業社)「使ひよい三星のぐでかいた絵を兵隊さんに

送りませう」(三星絵具製造所) 海軍省教育局監修『江田島精神』、予科

練教官の記録『翼の蔭』(大日本雄弁会講談社)

## 第一卷第二号 昭和十九年六月一日発行

われらの新聯合艦隊司令長官 豊田副武大将(写真と文) 1頁 海の精

鏡を鍛える海兵団画報(口絵写真五葉) 2〜3頁 「火の玉カンチャン」

(連載漫画) 47頁 上坂香苗(海軍航空本部教育部長・海軍少将)「全

国の青少年よ戦場の勇士につづけ」10〜12頁 下村湖人「葉隠の武

人古賀元帥」12〜15頁 三好達治「大東亜其栄園の青空は僕らの空」

松野一夫画16〜17頁(詩) 山崎淳一(海軍主計大尉)「南太平洋血

戦手記・血染めの軍艦旗」村上松次郎画18〜27頁 鹿島孝二「無

人島の少年兵」27頁(隨筆) 太田黒克彦「博多沖夜襲」十四歳・河

野通忠の初陣」・玉村吉典画28〜29頁 三井謙二(海軍航空本部海

軍中佐)「僕は雷撃機だ」・伊藤幾久造画30〜34頁 「海軍」編集部「海

軍志願兵の針路」(図解) 35頁 知多讓「島田水兵・ほがらか日記」

横井福次郎画36〜37頁 角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎

画(連載二) 38〜46頁 ここに艦隊・海軍の手先信号 48〜49

頁 中島健彦・毛利文昭(成蹊学園初等科五年)「よし僕らも行くぞ無

敵海軍の兄さん達を訪ねて」武山海兵団見学記・川村みのる画50〜

55頁 海軍省人事局「募集問答」乙種予科練の体格について」「海軍

志願兵の採用年令表」56〜57頁 黒岩一郎「海国日本男子の歌」

穴山勝堂画58〜59頁 赤川武助「壮烈、陸戦の神・安田部隊長 我

が死所ブナにあり」・松野一夫画60〜66頁 漫画船団67頁 海野

十三「宇宙戦争」・飯塚鈴児画（連載二）68～75頁 小泉義雄（海軍省人事局海軍中佐）「志願の手続と受験前の心得」77頁 「昭和十九年度甲種飛行予科練習生採用試験問題」78～79頁

〈頁数重複〉「こんな呼び方は笑はれます・心得て置くべき海軍用語」55頁 表紙「海軍の題字は何から選んだか」46頁 「やつてごらん誰にでもできる身体検査」（小野寺秋風画）47頁

〈発行〉（定価）前号と同じ

〈表紙絵〉宮本三郎「勇ましい海軍青年士官」

〈広告〉「貯蓄で出陣」（日本生命）「海へ行くんだ」（陸海空軍御用・仁丹）山岡莊八「御盾」『空の艦長』・野村愛生『北畠親房』・中正夫『成層圏飛行』（偕成社）「海は米英の進攻路だ 征かう海軍に」（消化栄養ビタレイ錠本舗）「造れ 送れ 撃て」（回虫の駆除マクノール本舗）「送れ飛行機 貯め抜け戦費」（住友銀行）「少年よつづけ」（西宮航空園）

### 第一巻第三号 昭和十九年七月一日発行

帝国海軍の新鋭（口絵写真六葉）1～4頁 「火の玉カンチャン」（連載漫画）5～8頁 永村清（海軍技術中將）「海は諸君を待つ」10～11頁 太田黒克彦「尽忠吉野山」・玉村古典画12～17頁 蔵原伸二郎「青海波」・松野一夫画18～19頁（詩）山崎淳一「南太平洋血戦手記・血染めの軍艦旗」・村上松次郎画（連載三）20～28頁 森健二「血戦輸送・母の愛に誓ふ若き海員魂」・伊藤幾久造画29～31

頁 海軍省人事局「君はどの兵種を選ぶか・ほまれ海軍志願兵」（水兵・少年水測兵・少年飛行兵・少年電信兵・整備兵・機関兵・工作兵・軍樂兵・衛生兵・主計兵・練習兵）32～33頁 濱田昇一（海軍中佐）「敵艦轟沈・僕の考へた新戦術」34～35頁（批評）海野十三「宇宙戦隊」・飯塚鈴児画（連載三）36～43頁 知多讓「島田水兵ほがらか日記」・澤井一三郎画44～45頁 日暮豊年（大日本海洋少年団理事・海軍少將）「帝国海軍は、なぜ強いのか」「出船の精神」を語る」・金子士郎画46～49頁 海軍省人事局「志願兵相談室」50～51頁 赤川武助「我が死所ブナにあり」・松野一夫画（連載二）52～60頁 海軍省人事局「我が帝国海軍の諸学校・君の進む道はどれか」61頁（図入り）ここに艦隊（なぞなど・笑話等）62～63頁 鹿島孝二「音楽で鍛へる艦隊の耳・少年水測兵―海軍対潜学校見学記―」64～69頁（写真五葉）朝広裕二（海軍艦政本部・海軍中佐）「新兵器・水中聴音機と探信儀の話」70～71頁（図入り）角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎画（連載三）72～78頁 海軍省人事局「海軍志願兵徵募検査学力試験問題の一例」「知っておきたい海軍志願兵受験の心得」79頁 編集局だより80頁

〈頁数重複〉「海軍諸学校のあるところ」33頁 「雑誌回読についてお願ひ」43頁 「わが校の誇り」44～45頁 「君はどの区に入るか」「海軍人事部はどこにあるか」50～51頁

〈発行〉（定価）前号と同じ

〈表紙絵〉寺内萬治郎「海軍練習生」

〈広告〉男性ホルモン製造元・帝国社臓器薬研究所 三菱鉛筆 呼吸器薬・カラニウム本舗(結核薬) マクノール本舗 三和銀行 仁丹

### 第一卷第四号 昭和十九年八月一日発行

闘魂を鍊る少年水兵(口絵写真十葉) 1〜4頁「火の玉カンチャン」(連載漫画) 5〜8頁 山川伝之助(文学博士)「明治天皇御製虔講」・穴山勝堂画10〜11頁 山岡莊八「真珠湾攻撃秘話・ハワイに生きてゐた海鷲」・梁川剛一画12〜23頁 「海軍」編集局「ああ鮮血のサイパン島」24〜25頁 日暮豊年「日本海軍の強さはここにある」・五分前の精神」を語る」・金子士郎画26〜29頁 木村毅「帝国海軍建設の父・勝海舟」30〜31頁 角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎画(連載四)32〜39頁 清水秀政(海軍少佐)「海軍志願兵受験の心得」40〜41頁 影山稔雄(「海軍」特派記者)「予科鍊の遊泳教育」(図入り)42〜45頁 海野十三「宇宙戦隊」・飯塚鈴児画(連載四)46〜53頁 友近頼義(海軍艦政本部・海軍中佐)「測距儀の話」(図入り)54〜56頁 海軍省人事局「昭和十九年海軍志願兵徴募検査試験問題の一例」57頁 太田黒克彦「少年武士道ものがたり・越の白雪」・玉村古典画58〜63頁 にこにこ艦隊64〜65頁 木村莊十「太平洋を征服せよ」海軍航空学校見学記」(写真二葉)66〜69頁 海軍省人事局「志願兵相談室・願書の書き方」70〜71頁 山崎淳一「血染めの軍艦旗」・村上松次郎画(連載四)72〜79頁 編輯局だより80頁

〈頁数重複〉「わが校の誇り」28〜29頁 「少年飛行兵の適性検査とはどんなものか」40〜41頁

〈発行〉〈定価〉前号と同じ

〈表紙絵〉 清水良雄「少年水測兵」

〈広告〉仁丹 三菱鉛筆 海野十三「栗水兵戦記」(講談社) 帝国社臓器薬研究所 カラニウム本舗 住友銀行 西宮航空園

### 第一卷第五号 昭和十九年九月一日発行

第一線航空基地(口絵写真八葉) 1〜4頁 「火の玉カンチャン」(連載漫画) 5〜8頁 山川伝之助「明治天皇御製虔講」(承前) 10〜11頁 秋永芳郎(「海軍」特派記者)「南国の少年飛行兵」鹿兒島海軍航空隊見学記」(写真三葉) 12〜17頁 井上康文「決然立つて奮戦すべし」・松添健画18〜19頁(詩) 山崎淳一「血染めの軍艦旗」・村上松次郎画(連載五)20〜28頁 斎藤信也(報道班員)「若鷲とマツチ」伊藤幾久造画28〜29頁 太田黒克彦「元寇対馬血戦」・玉村古典画30〜35頁 海軍省教育局「海軍予科生徒へ總進軍」36〜37頁(受験案内) 日暮豊年「海軍の躰教育」・「宜候の精神」を語る」・金子士郎画38〜41頁 木村毅「帝国海軍名将物語・樺山資紀大将」42〜43頁 海野十三「宇宙戦隊」・飯塚鈴児画(連載五)44〜50頁 にこにこ艦隊51頁 海へ征く者は覚えよう」結索法(つな結び)の話(図解付き)52〜53頁 大林清「燃える整備魂」○○海軍航空隊

を訪ねて」54～57頁 海軍省人事局「志願兵相談室」58～59頁

山本峰雄（航空研究所）「高速を誇るロケット機の威力」・山川惣治画  
60～64頁 漫画船団65頁 海軍省人事局「昭和十九年度後期甲種  
飛行予科練習生採用試験問題」66～67頁 角田喜久雄「南海の美少  
年」・山口将吉郎画（連載五）68～76頁 「海軍」特派記者「甲種  
予科練の身体検査場を見る」（写真二葉）77～79頁 編輯局日より  
80頁

〈頁数重複〉わが校の誇り35頁 東郷元帥遺訓43頁 予科練の作つ  
た歌57頁

〈発行〉〈定価〉前号に同じ

〈表紙絵〉中澤弘光「出撃の少年飛行兵」

〈広告〉三菱鉛筆 呼吸器病にカラニウム（ジャワ島製薬）ミナト式吸

癒液（蓄膿薬・殉国製薬）三和銀行 仁丹 講談社（書籍五冊）

### 第一卷第六号 昭和十九年十月一日発行

土浦海軍航空隊見学画報（口絵写真六葉）1～4頁 山川伝之助「明治  
天皇御製虔講」（承前）6～7頁 山岡莊八「太平洋の黒豹・吉川少将  
の最期」・花島勝一画8～19頁 古橋才次郎（情報局情報官・海軍中佐）  
「必勝の鍵はわが手にあり」・伊藤幾久挿絵20～23頁 角田喜久  
雄「南海の美少年」・山口将吉郎画（連載六）24～29頁 日暮豊年  
「軍艦の戦闘力をうむ三大条件・迅速、確実、静粛」・金子士郎画30～

33頁 松枝司藏（海軍中佐）「爆雷の威力」（写真・図）34～37頁

手旗現字通信（図入り）38～39頁 海野十三「宇宙戦隊」・飯塚

鈴児画（連載六）40～47頁 望月茂「勤皇の志士・宮部鼎蔵」48

～52頁 「火の玉カンチャン」（連載漫画）53～56頁 遠山喜二郎

（土浦航空隊体育教官）「諸君にもできる航空体育」（写真と図解）57

～61頁 木村毅「帝国海軍名將物語・西郷従道」62～63頁 山崎

淳一「血染めの軍艦旗」・村上松次郎画（連載六）64～72頁 海軍

省人事局指導「海軍少年兵特輯」（軍艦旗の下に集まれ 誉はたかし海

軍志願兵 志願の手続 海軍志願兵志願書 志願兵の入る諸学校 検査

の受け方 身体検査の受検心得 学力試験と口頭試問 海軍志願兵の進

む道 志願兵相談室 予科練の第二次検査 全校生徒予科練へ 志願手

帳）73～103頁 編輯局日より104頁

〈頁数重複〉笑話72頁 山形県が第一位103頁（旧藩主酒井忠良伯

の二男忠治が志願）

〈発行〉前号に同じ 〈定価〉五十五銭

〈表紙絵〉寺内萬治郎「手旗信号と練習兵」

〈広告〉日本生命 三菱鉛筆 カラニウム ミナト式吸癒液 住友銀行  
仁丹

### 第一卷第七号 昭和十九年十一月一日発行

海軍少年電信兵（口絵写真六葉）1～4頁 山川伝之助「明治天皇御製

虔講」(承前) 6～7頁 赤川武助「荒鷲の道」・梁川剛一画 8～19頁  
 木村毅「帝国海軍名將物語・伊東祐亨」 20～21頁 角田喜久雄  
 「南海の美少年」・山口将吉郎画(連載七) 22～29頁 日暮豊年「帝  
 国海軍の底力」『不言実行』を語る」 30～33頁 岡不可止「松下村  
 塾・国難に起つ少年志士」・玉村古典画 34～37頁 甲種予科錬の志  
 願問答(図解入り) 38～41頁 予科錬から故郷への便り(母へ・弟  
 への二通) 42～43頁 岩本喜一(海軍中佐)「航空戦と気象」 44  
 ～47頁 神島武夫(「海軍」特派記者)「海軍通信学校見学記」 48～  
 52頁 「火の玉カンチャン」(連載漫画) 53～56頁 「海軍」特派  
 記者「海軍志願兵の検査場を見る」 57～59頁 山崎淳一「血染めの  
 軍艦旗」・村上松次郎画(連載七) 60～69頁 志願兵相談室 70～  
 71頁 海野十三「宇宙戦隊」・山川惣治画(連載七) 72～79頁  
 編輯局だより 80頁  
 〈頁数重複〉 必勝の道 21頁 わが校の誇り 43頁 笑話 59頁  
 〈発行〉 前号に同じ 〈定価〉 五十銭  
 〈表紙絵〉 寺内萬治郎「操舵訓練中の少年兵」  
 〈広告〉 三菱鉛筆 カラニウム ミナト式吸癒液 三和銀行 仁丹 講  
 談社

第一巻第八号 昭和十九年十二月一日発行

少年掌砲兵(口絵写真七葉) 1～4頁 詔書 6～7頁 野村吉三郎(元

駐米大使・海軍大将)「奮起せよ、神州男児」大東亜戦争三周年滅敵の  
 決意」 8～12頁 見よ、かがやく大戦果(地図と表) 12～13頁  
 中野晃「必殺の先登体当り」・飯塚玲児画 14～19頁(有馬正文少将  
 の空母体当たり) 浅見淵「ああ 神風特別攻撃隊」・梁川剛一画 20～  
 21頁(詩) 山岡莊八「偵察員は空の艦長」・山川惣治画 22～25頁  
 「偵察員の歌」(海軍中尉・片田一生作詞、林伊佐緒作曲) 24～25  
 頁(楽譜付き) 角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎画 26～31  
 頁(連載八) 伊藤清六(海軍省人事局第三課長・海軍大佐)「純忠の神  
 鷲につづけ」今こそ好機、甲種予科錬最後の徴募」 32～33頁 井上  
 康文「空母出撃」・花島勝一画 34～39頁 中島信次郎(海軍砲術学  
 校教官・海軍中尉)「艦砲射撃の話」 40～43頁 海野十三「宇宙戦  
 隊」・山川惣治画(連載八) 44～51頁 にこにこ艦隊 52頁 「火の  
 玉カンチャン」(連載漫画) 53～56頁 三重野武(海軍中佐)「航空  
 決戦と目」近視をなほして大空へ」 57～59頁 志願兵相談室 60～  
 61頁 山崎淳一「血染めの軍艦旗」・村上松次郎画(連載八) 62～  
 71頁 編輯局だより 72頁  
 〈頁数重複〉 若鷲の作つた歌(敵うちとし今宵また聞くそのかげにわが  
 先輩は御楯と征きぬ) 19頁  
 〈発行〉 〈定価〉 前号に同じ  
 〈表紙絵〉 寺内萬治郎「戦闘配置につけ」  
 〈広告〉 帝国社臓器業研究所 三菱鉛筆 カラニウム ミナト式吸癒液  
 住友銀行 仁丹「模型も兵器だ」(全国ツバサヤ教会) 富士写真工業

第二巻第一号 昭和二十年一月一日発行

聖訓五箇條(東郷元帥謹書)2頁 大元帥陛下の御尊影3頁 山川伝之助「明治天皇御製謹話」・斎藤五百枝画5頁 捲き起る肉弾神風一敷島隊出撃の刹那(口絵写真七葉)9頁 栗原悦蔵(大本営海軍報道部長・海軍大佐)「神鷲に誓はん」14頁 15頁 山岡荘八「忠烈萬世に輝く一神風特別攻撃隊敷島隊」・松添健画16頁 27頁(五名の写真と名前・階級) 蔵原伸二郎「神風特攻隊敷島隊を讃ふ」・笠松紫浪画28頁 29頁(詩) 伊賀上茂(「海軍」特派記者)「負けず嫌ひの閑行男青年」30頁 32頁 杉松有義(国民学校旧師)「親切でがんばりやの永峯肇少年」32頁 33頁 海野十三「宇宙戦隊」・飯塚鈴児画(連載九)34頁 41頁 木村毅「帝国海軍名將物語・東郷平八郎」42頁 43頁 神島武夫「予科錬入隊第一報一三重海軍航空隊を訪ねて」44頁 47頁 角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎画(連載九)48頁 54頁 にこにこ艦隊55頁 清水秀政「大空に雄飛せんとする諸君へ」56頁 59頁 西原貢(海軍電波本部海軍技師)「電波探信儀の話」(図入り)60頁 65頁 横井福次郎「爆雷ドンチャン」66頁 67頁 (連載漫画) 山岡荘八「怒濤」・松野一夫画68頁 75頁(小説) 編輯局だより76頁

〈頁数重複〉 一行知識27頁 東郷元帥遺訓43頁 予科錬の作つた歌

54頁 志願兵相談室58頁

〈発行〉(定価)前号に同じ

〈表紙絵〉 寺内萬治郎「羽ばたく若鷲」(表紙絵に「神風特別攻撃隊の尽忠精神につづけ」のスローガン)

〈広告〉 講談社 博仁科学社 三菱鉛筆 カラニウム 三和銀行 仁丹

第二巻第二号 昭和二十年二月一日発行

山川伝之助「明治天皇御製謹話」1頁 4頁 武神に誓ふ若鷲魂(口絵写真八葉)58頁 中村孝也(文学博士)「神武の国に敵なし」10頁 14頁 海軍通信学校校歌15頁(楽譜入り) 浅見淵「基地の感激一神風特攻隊の勇士たち」16頁 19頁 山岡荘八「怒濤」・松野一夫画(連載二)20頁 29頁 中村一良(文部省図書監修官)「国史を貫く日本精神(一)―大君の辺に」・玉村吉典画30頁 34頁 志願兵相談室35頁 後藤栖根(「海軍」特派記者)「聖地近く神技を磨く一鹿島海軍航空隊」(写真二葉)36頁 39頁 角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎画(連載九)40頁 45頁 「爆雷ドンチャン」(連載漫画)46頁 47頁 多田裕計「若鷲感激物語・おぼぞら初陣」・富田千秋画48頁 55頁 山本峰雄「わが海軍新鋭戦闘機一世界に誇る「零戦」」・雷電「月光」(写真二葉と図)56頁 60頁 「海軍」特派記者「海軍経理学校予科生徒の採用試験場を見る」61頁 63頁 海野十三「宇宙戦隊」・飯塚鈴児画(連載九)64頁 71頁 編輯局だより72頁

〈頁数重複〉 わが校の誇り26頁 飛行機はこんなに鋏を使ふ71頁  
〈発行〉〈定価〉前号に同じ

〈表紙絵〉 寺内萬治郎「出撃」

〈広告〉 貯蓄で出陣（日本生命） 戦争の為の鉛筆（三菱鉛筆） 神風隊  
に我ら続かん（カラニウム） 太平洋は君達の手で（帝国社臓器業研究所）  
送れ飛行機貯め抜け戦費（住友銀行） 吠えろ怒涛（仁丹） 富士音盤  
の新譜発売「神風節」「若き翼」「少年戦車兵」「僕等の分団」「国民歌  
の大東亜戦史」（講談社） 模型設計図（博仁科学社）

## 第二巻第三号 昭和二十年三月一日発行

山川伝之助「明治天皇御製謹話」・鈴木朱雀画3～6頁 出撃奮迅する  
帝国海軍（口絵写真五葉）7～10頁 赤川武助「B29撃墜王・遠  
藤幸男大尉」（写真八葉）11～23頁 中村一良「国史を貫く日本精  
神（二）―清明の心」・玉村古典画24～27頁 木村毅「軍神物語・  
広瀬武夫」28～29頁 海野十三「宇宙戦隊」・飯塚玲児画（連載十）  
30～39頁 志願兵相談室40頁 昭和二十年度海軍志願兵徵募検査  
試験問題41頁 中野晃「近代科学戦の華・少年電測兵」（写真四葉）  
42～46頁 にこにこ艦隊47頁 角田喜久雄「南海の美少年」・山  
口将吉郎画（連載十）48～54頁 昭和二十年度海軍志願兵徵募検査  
試験問題模範解答55頁 大宅由秋（海軍省囁託・海軍大佐）「海の肉  
弾・魚雷艇」・山川惣治画58～61頁 「爆雷ドンチャン」（連載漫画）

62～63頁 山岡莊八「怒涛」・松野一夫画（連載三）64～73頁  
編輯局だより74頁

〈頁数重複〉 寸鉄知識23頁 東郷元帥遺訓29頁 わが校の誇り61  
頁 この歌を愛唱しませう（幕末勤皇歌人佐久良東雄の歌二首）73頁

〈募集〉 第五回全日本少国民発明工夫製作品大募集56～57頁

〈発行〉〈定価〉前号に同じ

〈表紙絵〉 寺内萬治郎「海戦必勝の耳」・少年電信兵」

〈広告〉 帝国社臓器業研究所 三菱鉛筆 第一徴兵 カラニウム 三和  
銀行 仁丹

## 第二巻第四号 昭和二十年四月一日発行

山川伝之助「明治天皇御製謹話・海に拝する大御心」・鈴木朱雀画2～  
5頁 海底にたぎる伝統魂―大竹海軍潜水学校訓練画報（口絵写真七葉）  
6～10頁 小笠原長生（海軍中尉・子爵）謹話「大決戦下に仰ぐ天長  
節」12～13頁 三増英夫（海軍司令官）「神風特攻隊の出撃を送る・  
国難を救ふ若き力」（写真二葉）14～18頁 海軍への近道19頁  
中村一良「国史を貫く日本精神（三）・大化のくさび」20～23頁  
硫黄島防備の歌24～25頁 山岡莊八「怒涛」・松野一夫画（連載二）  
26～34頁 志願兵相談室35頁 月光渉「本土決戦にしめせー日本  
独特の出血作戦」・伊藤幾久造画36～39頁 山本周五郎「少年士道  
記・ならぬ堪忍」・山口将吉郎画40～41頁 小林喜通（航空研究所

技師)「高々度飛行と気密室」・山川惣治画 42〜47頁 木村毅「軍神物語・佐久間勉」 48〜49頁 清水秀政「敵艦爆沈のいと口をひらく少年水測兵の任務」(写真と図) 50〜52頁 「海軍」特派記者「佐久間精神につづく鉄鯨魂」大竹海軍潜水学校見学記」(写真三葉) 53〜57頁 「爆雷ドンチャン」(連載漫画) 58〜59頁 影山稔雄「一校から三十名の合格者」都立六中健児の意気・海軍予科生徒受検突破記」 60〜61頁 合格者の受検体験記(松井悦蔵・宮本政泰・高桑茂夫) 62〜63頁 昭和二十年度海軍経理学校予科生徒採用試験問題(数学・物象) 64〜65頁 角田喜久雄「南海の美少年」・山口将吉郎画(連載十二) 66〜73頁 編輯局だより74頁 にこにこ艦隊73頁

〈発行〉(定価)前号に同じ

〈表紙絵〉松野一夫「海軍予科生徒」

〈広告〉送れ飛行機貯め抜け戦費(住友銀行) 神州に健児あり(仁丹) 兄鷲の武勲に負るな(鼻病にミナト式吸癒液) 神風隊に我ら続かん(結核にカラニウム)

注1 「海軍」編輯局の「創刊のことは」(原文旧漢字・総ルビ)

尽忠報国の赤誠に燃え立つ青少年諸君よ。諸君が熱烈に待望してゐた新雑誌「海軍」は、ゆかりも深き海軍記念日を以て、いよいよ誕生したのである。この颯爽たる勇ましい姿を見給へ。これが有史以来の大決戦下、世界各国が血みどろの戦争をしてゐる最中に創刊されたのである。日本なればこそできることである。日本の底力を見よ。日本の偉さを見よ。この新雑誌「海軍」が戦ふ日本国の誇として、世界に押し出す日が、今こそ来

たのだ。親愛なる青少年諸君よ。双手を挙げて萬歳を唱へようではないか。

この新雑誌「海軍」は、すみからすみまで帝国海軍の方々の特別な御指導によつてできる雑誌であります。であるからこの雑誌は、どこを読んでも、どの頁を開いても、帝国海軍の精神に光り輝いてゐるのに、諸君も気づいたことではありません。帝国海軍人たんとする青少年にとつては、これ以上たためになる雑誌は無いはずで、海軍少年兵たらんとする青少年諸君が、一日も手はなすことのできぬ雑誌です。

親愛なる青少年諸君よ。この雑誌を毎月愛読して、立派な軍人になつてくれたまへ。必勝不敗の帝国海軍は、諸君がこの雑誌によつて心身をきたへ、一日も早く光榮ある軍艦旗の下に馳せ参する日の来るのを待つてゐるのだ。

われわれは、諸君と共に、この立派な雑誌を生んで下さつた帝国海軍に心から感謝し、一人でも多くの青少年が、この雑誌を愛読せられんことを切に希望するものであります。

#### 【解説】

執筆者の作家のほとんどは南方徴用で報道班員として派遣された人たちである。浅見淵、井上康文、海野十三、鹿島孝二、木村莊十、多田裕計、角田喜久雄、山岡莊八の名は海軍報道班員。秋永芳郎、大林清は陸軍報道班員としてマレー方面に派遣された。「文芸年鑑・二千六百三年版」(桃溪書房、昭和十八・八)の昭和十六年十月の項に、「陸軍省ではマレー、ビルマ、スマトラ、ジャワ、比島などの各地域における文化工作、特に緊急に要望される報道宣伝部門を更に強化、推進するため、今度南方に骨を埋むるの氣概を以て挺身報道宣伝事業に勤務する要員を募集する」とある。「募集」とあるが、実際は昭和十四年七月十五日から発動施行された「国民徴用令」に基づく「白紙召集」(兵隊の場合は「赤紙召集」)で、病氣理由以外の辞退は認められなかった。報道班員は最

低五カ月から三年に及ぶものなど期間については一様ではない。第一次から第三次に及ぶ派遣で文学者は八十余名が占領地での文化工作に従事した。(詳細は神谷忠孝・木村一信編『南方徴用作家―戦争と文学―』世界思想社刊、一九九六・三を参照)。文学者のほかに、画家、漫画家、映画人、演劇人、放送関係者、新聞記者、宗教学者、写真家、通訳班など多数が徴用を受けた。

『海軍』に起用されている作家は報道班員のなかでは児童向けの読み物で定評のあった者、吉川英治、山岡荘八、大林清、木村毅のような大衆に人気のある者が目立つ。『海軍』の奥付には毎号にわたって、「なほ前線の兵隊さんは、非常に読物を希望してをられまので、お買ひもとのめの方は、ぜひ送って上げてください。」とある。これは、読み終わった雑誌の活用として有効であるばかりでなく、子供からの慰問袋に入っている雑誌を丁寧に兵士に読んでもらう効果もあつたと推測される。子供向けということもあつて、教育を受けていない兵士にも読めるように工夫されている。読み物の大部分には人気画家の挿絵が施されており、梁川剛一、山川惣治といった少年に人気のある挿絵画家の起用、漫画の連載なども効果的であつた。

【付録】戦争詩

「大東亜共栄圏の青空は僕らの空」

三好達治(『海軍』昭和十九年六月号)

大東亜共栄圏の

青空は僕らの空

日の丸のひるがへる空

日の丸を翼にそめた

荒鷲のとびかふ大空

何人の侵すをゆるさず

何人の汚すをゆるさず

大東亜共栄圏の

青空は僕らの空

大東亜共栄圏の

はてしなき空の隅々

敵機ばら百機来らば

いざ百機のことさず撃ちて

青空の雲のうへより

撃ち落したたき落さん

潮黒き大海原の

鱗およぐ波の底まで

鱗の餌と払ひ落さん

日の本の海の荒鷲

海こえて幾百千里

敵あらばかならず撃ちて

敵あるをつひにゆるさず

大東亜共栄圏の

青空は僕らの空

日の丸のひるがへる空

日の丸を翼にそめた  
荒鷲のとびかふ大空

「神風特攻隊 敷島隊を讃ふ」

蔵原伸二郎（海軍）昭和二十年一月号

かれこそは天孫の臣<sup>おみ</sup>  
かれこそはまこと益良雄<sup>ますらお</sup>  
ものふのそのものふよ  
神風の敷島部隊  
雲速しスルアンの沖  
潮騒は天にとどろく  
五人の尊きすがた  
荒み魂炎と飛びぬ  
かみかぜの過ぎゆくところ  
たちまちに破れて碎けて  
渦しほに吞まれ消え失す  
悪魔らの大艦いくつ  
戦ひはここに極り<sup>おとまり</sup>  
臣道はここに始る  
敵どもはをのき怖れ  
同胞は仰ぎて伏しぬ  
敷島の大和ころよ

いざゆかむおくれは取らじ  
男子<sup>おのこ</sup>われ男子われはや  
とことばに名をぞ惜しまむ